

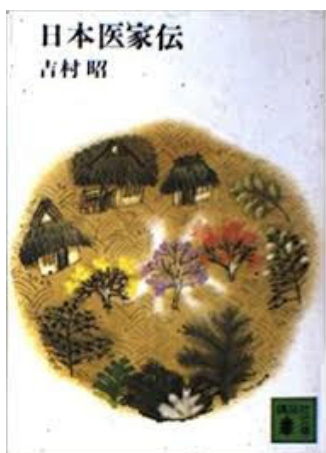
2020
秋号

千の声 VOICE NO.10

吉村昭が記した日本の歴史(医家)

吉村昭の執筆した作品のジャンルは江戸時代から幕末にかけての歴史的事件や人物を描いた歴史小説、戦史や明治から昭和にかけて起こった実際の事件や自然災害を描いた記録小説など、多岐に渡る。執筆にあたりあくまで史実にこだわり、題材とした事件や人物、災害についての膨大な資料や証言を整理してつなぎ合わせることで、実際に起こったできごとをできるかぎり正しく後の世代に伝えるとともに、当時に生きた人々の心情や生き様をリアルに感じさせてくれる。今回は、『日本医家伝』をはじめとする近代医学の先駆者の苦難の生涯を描いた作品を紹介する。

●吉村昭『日本医家伝』 講談社文庫



日本初の人体解剖を行った山脇東洋、「解体新書」の翻訳という偉業を達成した前野良沢、日本で最初の種痘法をロシア抑留中に習得した中川五郎治、ドイツ医学採用に狂奔し晩年は悲惨だった相良知安、自らの屈辱感をバネに医学の道を邁進した荻野ざん等、近代医学の先駆者 12 名の苦難の生涯を描いた白眉の評伝。

目次

山脇東洋	7	松本良順	157
前野良沢	27	相良知安	177
伊東玄朴	49	荻野ざん	199
土生玄碩	71	高木兼寛	219
楠本いね	95	秦佐八郎	239
中川五郎治	117	あとがき	260
笠原良策	137	文庫版あとがき	262
		年譜	268

吉村昭が描いた近代医家の小説を紹介

「前野良沢」…『冬の鷹』/新潮文庫

豊前国中津藩の藩医で蘭学者、のち江戸幕府の幕臣。『解体新書』の主幹翻訳者。

「楠本いね」…『ふぉん・しいほととの娘』上・下/新潮文庫

ドイツの医師フォン・シーボルトの娘。日本人女性で初めて産科医として西洋医学を学んだ人物。

「中川五郎治」…『北天の星』上・下/講談社

ロシアの捕虜となりシベリア滞在中に牛痘種痘術を覚え、帰国後日本初の種痘を行った人物。

「笠原良策」…『雪の花』/新潮文庫

私財をなげうち生命を賭して種痘の普及に努めた。狂人とさげすまれながら天然痘と闘った人物。

「松本良順」…『暁の旅人』/講談社

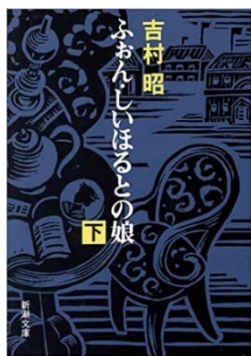
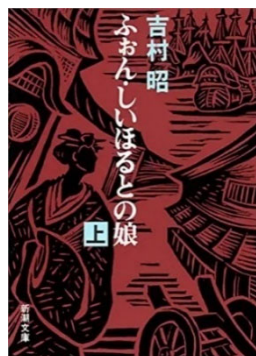
幕命により長崎でポンペに学び江戸に戻ってから医学所頭取。明治新政府の初代陸軍軍医總監を務めた人物。

「高木兼寛」…『白い航跡』上・下/講談社

海軍軍医總監を務め東京慈恵会医科大学の創設者。脚気の撲滅に尽力し「ビタミンの父」とも呼ばれる人物。

「高松凌雲」…『夜明けの雷鳴』/文春文庫

函館戦争に身を投じ、壮絶な戦いの場にあつて敵味方の区別なく負傷者の治療を行った人物。



●吉村昭『冬の鷹』 新潮文庫

医業を生業とする良沢だがオランダ語に興味を持ち、47歳で藩主の許可を得て長崎に遊学する。しかし、オランダ語の勉強ははかどらず、オランダの書物もどのようなことが書いてあるのか見当もつかず絶望感におそわれた。いくつかの書物を購入し、江戸へ戻った。良沢は、杉田玄白らと共に骨々刑刑場へ足を運び、腑分けを見学したことで、購入したオランダの書物『ターヘル・アナトミア』に示された解剖書の正確さに驚きを感じていた。そして良沢らは和訳に強い使命感を抱いた。わずかな手掛りをもとに、苦心惨憺、殆んど独力で訳出した『解体新書』だが、訳者前野良沢の名は記されなかった。出版に際し、良沢は翻訳者に名を連ねることを拒んだ。翻訳は一応成ったが、良沢にとってその内容は決して満足すべきものではなかった。さらに長い歳月をついやして訳を練り、完訳を果たして後に初めて刊行すべきだと思っていた。一方、杉田玄白の興味は専ら出版であり、不完全ながらも和訳された『解体新書』を世に広めることで医学の発展を望んだ。出版に尽力した杉田玄白が世間の名声を博するのとは対照的に、前野良沢は終始地道な訳業に専心、孤高の晩年を貫いて巷に窮死する。わが国近代医学の礎を築いた画期的偉業、『解体新書』成立の過程を克明に再現し、両者の劇的相剋を浮彫りにする感動の歴史長編。

一 大通詞西善三郎



かれは、蘭書を自由に読む力をつけたいと西に言った。それは至難のわざであるのにちがいないが、同じ人間であるオランダ人の書きしるしたものが読めぬはずがない。彼は蘭語の研究に身を入れたいのだが、その方法を教えて欲しいと言った。

「それでは、御無理である理由をお話し申そう。たとえば、湯、水、酒などを飲むという言葉はオランダ語でなんというかをたしかめるといたそう。その折にはオランダ人の前で茶碗に水等を入れて飲むまねをしてみて、この動作をなんということと手真似で問う。オランダ人もその仕草を察して飲むという言葉に答えてくれる。そうしたことによって、飲むというオランダ語はデリンキということを知り申すことができた。しかし、この程度のことなら容易だが、上戸、下戸という言葉をつかむにはどのようにいたしたらよいか」西は、良沢の眼をさぐるように見つめた。

「上戸、下戸などという言葉は、到底手まねなどの動作で問うことはできませぬ。一応上戸は酒を多く飲む者、下戸は酒をほとんど飲めぬ者ということで、多く飲む、少く飲むということは区別してオランダ人にただすことはできる。けれども、上戸、下戸は酒

を飲む量の多い少いということ以外に、酒好き、酒ざらいということもふくまれている。しかし、好むということは心の情に関する事故、動作でオランダ人につたえることはでき申さぬ。そうでござろう？」

西は、笑みをふくんだ表情で言った。良沢は、うなずいた。(P21～23)

六 ターヘル・アナトミアの解剖図

「これは、ターヘル・アナトミアと申すオランダの解剖書でござる。一昨年、末、長崎へ遊学し百日ばかり滞在いたしたが、その間に買いもとめたもので家蔵しております」と言った。玄白が驚きの声をあげた。

「これは、まことに奇遇でござります。これを見てください」玄白は、縁台においた包みをとると、中から一冊の書物をとり出した。良沢の口からも叫び声がもれた。玄白のとり出した書物も、ターヘル・アナトミアで、しかも同じ版のものであった。(P128～129)

良沢たちは、老人の説明にうなずくこともせず、妙な文字のしるされている書物と見くらべながら、眼を光らせてささやき合っている。そして、かれらの口からは、

「いささかも違いませぬな」という感嘆したような声がしきりにもれていた。老人は、かれらが異常な興奮をしめしていることに気づいた。その緊張した気配に、かれは口をつぐんだ。

「これは、なんでござる」玄白が、老人に鋭い眼を向け、腹部の小さな臓器を指さした。

「へい、私も名は知りませぬ。若いころから何度も死罪の者の体を解き分けてまいりやしたが、どの体の腹の中にも必ずここにあるものでございやす」老人は、つつましい口調で答えた。かれの顔には、すでに尊大な表情はあとかたもなく消え、玄白らに対する畏敬の色すらうかび出していた。玄白も良沢も、競い合うようにターヘル・アナトミアのページを繰って解剖図をさぐった。

「ござりました。たしかにこれでござる。位置も形も全く同一でござります」玄白が、甲高い声をあげた。(P137～138)

かれらは、ふたたび黙然と歩きつづけた。川面を船が二艘つらなって川下に動いてゆく。不意に、玄白が足をとめた。

「いかがでござろう。ぜひおき下され」玄白の眼が、良沢と淳庵に据えられた。良沢たちは、立ち止った。

「いかがでござろうか。このターヘル・アナトミアをわが国の言葉に翻訳してみようではありませんか。もしもその一部でも翻訳することができ得ましたならば、人体の内部や外部のことがあきらかになり、医学の治療の上にはかり知れない益となります。オランダ語をわが国の言葉に翻訳することは、むろん至難のわざにちがいありません。しかし、なんとかして通詞などの手もかりず、医家であるわれらの手で読解してみようではござらぬか」玄白の顔には、はげしい熱意の色がみられた。良沢の体が、一瞬硬直したように動かなくなった。眼は玄白を凝視し、顔には血の色がのぼっ

ていた。

「よくぞ申された」良沢が、腹の底から声をしぼり出すように言った。そして、何度もうなずくと、
「実を申すと、私は二、三年以前からオランダ書を翻訳いたしたき宿願をいだいてまいりましたが、一人ではかなわず、かと言って志を同じくする良友もござらぬ。そのことを嘆いて鬱々といたずらに日を過してまいりましたが、おのおの方がなんとしても翻訳の業を果したいと欲せられるなら、まことに心強きかぎりです。私は、昨年長崎へもゆきオランダ語も少々おぼえてまいっておりますので、それを手がかりに、このターヘル・アナトミアの解説に取りくんでみましょう」(P141～143)

七 翻訳作業

玄関で人の訪れる声を耳にした。妻が出てゆく気配がすると、

「小浜藩医杉田玄白、中川淳庵と申す者です」という声がきこえた。かれは、玄白と淳庵を自室に通した。玄白たちの眼は、異様に光っていた。そして、机を挟んで対坐すると、昨日の腑分けのことを熱っぽく口にしはじめた。淳庵が口をひらいた。

「翻訳が並大抵のことでないことは充分に承知しておりますが、もしもこのターヘル・アナトミアを翻訳することができたとしたなら、医学の進歩にどれほど益するか想像もできません。昨日の腑分けの実見によって、古来からつたわる医学の教える人体構造があやまっていたことを知り申した。この一書の翻訳は、古来の医学を否定するものであり、新しい医学の門をひらくことになるかと存じます。私は、自分の人命を賭してもこの難事業にとり組む覚悟でおります」良沢は、かれらとともに翻訳事業に取り組むことをかたく心にきめた。(P146～148)

かれらは、二冊のターヘル・アナトミアをひらいた。長い沈黙がかれらの間にひろがった。かれらの眼前には、多くの横文字がびっしりとならんでいる。

「良沢殿、少しはおわかりになられますか」淳庵がたずねた。

「皆目、見当もつきませぬ。わからぬことは貴殿たちと寸分ちがいませぬ」良沢は弱々しい眼をして答えた。玄白が深く息をつく。

「まことに櫓も梶もない船で大海に乗り出すようなもの。茫洋として寄るべきかたもありませぬ」と、つぶやいた。

かれらは、呆然とターヘル・アナトミアの文字のつらなりをながめていた。(P153～154)

「良沢殿、私は、あらためて翻訳を志した日にたちもどって考えてみました。われらは、女の刑死人の腑分けに立ち会い、その内臓と骨格がターヘル・アナトミアの解剖図と全く一致していることに驚き、感動したのでござる。私は、あの日の感動を大切にいたしたい。と言うよりは、このオランダ医書の翻訳を志した最大の動機は、解剖図の正しさを正確に理解したいと思ったことにあるはずでござるが、いかがでしょうか」玄白は、良沢の顔に眼をすえた。良沢は、うなずいた。

「それならば、われわれの翻訳事業は、この書にある人体図から手がけるべきで、その後に全書を解きあかすことにつとめることが自然の道と申さねばなりませぬ」と言って、玄白は、あわただしくページを繰った。(P149～158)

十一 「解体新書」杉田玄白訳にて刊行

「ところで、解体新書の刊行について種々考慮した末、翻訳の盟主である貴殿に序文をしたためていただくのが最良の方法であると考えました。これは、淳庵殿の意見もきき定めたこととござります」玄白は、おだやかな表情で言った。良沢は、うなずきながらきいていたが、玄白の言葉がきれると、

「それは、ご辞退申し上げたい」と即座に言った。思いがけぬ返事に、玄白は呆気にとられて良沢の顔を凝視した。黙思していたが、玄白に眼をむけると、「私の氏名は、一字たりとも記載していただきたくないのござる」と、きっぱりした口調で言った。(P225～226)かれは、翻訳は一応成ったが、良沢にとってその内容は決して満足すべきものではなかった。さらに長い歳月をついやして訳を練り、完訳を果たして後に初めて刊行すべきだと思っていた。(P228)

「解体新書」の印刷・製本が出来上ったのは、その年(安永三年)の八月であった。

本文の巻之一から巻之四の冒頭には、「解体新書」訳業の関係者の氏名がしるされていた。

若狭 杉田玄白翼 訳

同藩 中川淳庵鱗 校

東部 石川玄常世通 参

官医東部 桂川甫周世民 閱

ターヘル・アナトミアの翻訳事業に従事したのは、杉田玄白、中川淳庵、桂川甫周とそして前野良沢の四名であった。翻訳を手がけた頃、オランダ語の知識をもっていたのは良沢のみで、玄白はABC……すら知ってはいなかった。そして、その後の翻訳も、良沢の語学力をたよりにすすめられた。当然「解体新書」の著者名の筆頭には、良沢の名前がしるされていなければならなかった。

中津 前野良沢熹 訳

と、印刷されるべきであったが、良沢の名はなく、代りに「訳」の部分に杉田玄白とある。(P248～251)

鎖国令が敷かれたエトロフ島に、二隻のロシア艦が来航した。五郎治と左兵衛はその船で強制的にオホーツクへ連れ去られてしまう。しかし、諦めずに帰国への道を探る中で、五郎治は種痘の方法を学ぶ機会を得た。当時の日本では天然痘は死病と言われ恐れられていたが、ロシアでは天然痘に感染した牛の体液を使用する種痘という予防法が普及していた。奇跡的に帰国することができた五郎治は、松前に住み、日本で初めて種痘を成功させる。



一 二隻のロシア艦

その瞬間、かれの体が硬直した。朝霞のただよう内保の湾に、眼にしたこともない大小二隻の黒々とした舟がうかんでいる。帆柱が三本突き立ち、その頂きに旗印が垂れ、船べりには多くの穴がみえ、そこから大砲の砲口ものぞいている。船形は、千石船と全く異り、甲冑かっちゅうで身をかためたような堅牢さとただけしさをもっている。小波の立つ海面に、それは岩肌を露出した島のように静止していた。湾には、不気味な静寂がひろがっている。(上 P51)

三 捕虜としてシベリアへ

「ナゼ、私ト左兵衛ヲ帰国サセヌカ」かれは、中年の水兵に怒りでふるえた声をかけた。水兵が艦長に通訳すると、日本語の知識をもつ若い下士官が、五郎治を指さし、「オヤゴダ」と言った。「オ前ハ、親方ダ。親方ハ連レテ行ク。左兵衛ハオ前ノ供ノ者トシテ連レテ行ク」水兵が、険しい眼をして答えた。(上 P172～173)

七 二度目の逃亡

「今になってこんなことを言い出しては、さぞ迷惑だろうと思うが、おれは、心変りがした。おれを連れて行ってくれ。小頭と一緒に逃げたい」左兵衛は、膝をついた。「本心でか？」五郎治は、左兵衛の顔を凝視した。「もう心変りはせぬ。ここに残っておれば、切支丹にされてしまう。それなら、死を覚悟で逃げてみたい。日本へ帰りたい」左兵衛は、強い口調で言った。(上 P463～464)かれは、左兵衛が肉をさかんに口にはこんでいるのに呆れた。左兵衛は、嗅覚も味覚も失われているのかとさえ思った。「左兵衛、この肉は腐っている。食べると体に悪い。殊にお前は、二、三日前から腹の具合が良くないのだ。それ以上食べぬ方がいい」五郎治は、日本語で言った。(上 520～521)その頃から、左兵衛の呼吸に変化が起った。顔を上下にゆらせて息を吸い、息を吐く。その間隔が、次第に間遠になってゆく。五郎治は、寝台にしがみついていた。「左兵衛、死なないでくれ。おれ一人を残さないでくれ。死ぬんじゃない」五郎治の口から、子供のような泣き声がふき出た。左兵衛の呼吸は、停止した。(上 P534)



八 「オスペンナヤ・クニーガ」

「コレハ、何ノ事ヲ書イテアル書物カ？」かれは、リコルド大尉に問うた。リコルド大尉は、書物の表題を声をあげて読んだが、五郎治には意味がわからなかった。「オスペンナヤ・クニーガ」と、リコルドは言った。「瘡瘡(天然痘)か？」かれは、ようやく納得して甲高い声をあげ、リコルドにうなずいてみせた。五郎治は、自分の耳を疑った。リコルドの言葉をきき誤ったのではないかと思った。かれは、「熱病ニカカラヌ方法ガアルト言ウノカ？」と、問い直した。(下 P91～92)

九 種痘の習得

牛痘をとるには、まず若い牝牛を杭にしばりつけて暴れさせないようにし、毛の少ない皮膚の薄い部分、たとえば乳房などに小刀で三ミリほどの長さの傷を二、三カ所つける。そして、そこに天然痘にかかった人間の発痘した個所の膿をすりつける。三日目頃から、その部分が化膿するので、膿を数日後に採取しガラス板にぬりつけてたくわえる。シーモノフは、はりついた二枚のガラス板をとり出し、それをはがした。かれは、ガラス板の上に唾液をたらして乾いた膿をとかした。そして、それがすむと小刀をとりあげ、「男ハ右腕、女ハ左腕ニ植エル」と、子供のうでをまくり上げながら五郎治に言った。腕の上膊を、シーモノフは小刀で小刻みに突きはじめた。たちまち皮膚がやぶれ血が出てきた。シーモノフは、血の出た分部に唾液でといた膿をぬりつけた。(下 P120～122)

十 国後島に上陸し松前へ

国後島に上陸することができてから一ヵ月後の文化九年(一八一二)九月六日、五郎治は、国後島泊を出帆した千石船で役人の監視を受けながら松前にむかった。同船には、五郎治が所持していた種痘法の本その他、日記、煙草袋等が大箱におさめられてのせられ、役人は五郎治の申し立て書を携行していた。(下 P218)

十一 種痘の成功

それは、ロシアで習いおぼえた通りの方法であったが、果してそれが安全な種痘といえるかどうか疑問であった。かれの胸には不安が強くなり、不吉な想像にもおびえるようになった。牛の体に発した天然痘に感染して、イクが本格的な天然痘になり悶死することも考えられる。仮に膿が天然痘と無関係であったとしても、悪性の毒がイクの体内にひろがるおそれも十分にある。医学知識のないかれは、自分の行為がどのような結果をうむか推測もできず苦悩した。(下 P370)五郎治の種痘は、奇跡的にも成功した。大野村の彦助が飼っていた牛の吹き出物は、天然痘によるものであり、かれはそれを十一歳の田中イクの腕に植えつけることができたのだ。(下 P370～375)

●吉村昭『新装版 白い航跡 上・下』 講談社文庫

薩摩藩の軍医として戊辰戦役に従軍した高木兼寛は、西洋医学を学んだ医師たちが傷病兵たちの肉を切り開き弾丸を取り出す姿を見聞し、自らの無力さを痛感すると同時に、まばゆい別世界にあこがれる。やがて海軍に入った兼寛は海外留学生してイギリスに派遣され、抜群の成績で最新の医学を修め帰国した。(上)

脚気の原因は食物にあり。運命を賭けた遠洋航海に軍艦「筑波」が出港する海軍軍医総監に登りつめた高木兼寛は、海軍・陸軍軍人の病死原因として最大問題であった脚気予防に取り組む。兼寛の唱える「食物原因説」は、陸軍軍医部の中心である森林太郎(鷗外)の「細菌原因説」と真っ向から対決した。脚気の予防法を確立し、東京慈恵会医科大学を創立した男の生涯を描く歴史ロマン。(下)



一 戊辰戦役で西洋医学に驚く

医師としての修業をしてきた兼寛は、一応、患者の手当てができるようになっていて、藩の要請をうけて従軍したのも、戦場で傷つき病んだ者を一人でも多く治療したいと思ったからであった。斬られた傷についても粉薬、油薬を傷口につけ、万病無憂膏などの膏薬をはり包帯を巻きつける。しかし、銃弾にあたって深傷を負った者の治療法は知らず、耳にしたこともない。銃弾がのめりこんだ者は手のほどこしょうがなく、死をまぬがれるのは不可能だと考えていただけに、肉を切り開き弾丸を取り出した関の行為に、放心したような驚きを感じていた。(上 P24)

三 西洋医学を学ぶためイギリスに留学

「私は、新しい西洋医学を学びたいのです」兼寛は、しぼり出すような声で言った。中村は腕を組み、口をつぐんでいた。西洋医学を身につけたいと言っても、蘭方医の石神ですらその域に達してはいないという。それを学びたいと言われても、中村には返事ができるはずはなかった。しばらく思索していた中村は、「そのような望みがあるなら、穆佐にいても仕方があるまい」鹿児島に出て開成所に入學したらどうか」と言った。(上 P117)

椅子を兼寛にすすめた石神は、身を乗り出し、「高木、イギリスへ行かぬか」と、のぞきこむような眼をして言った。突然の言葉に、兼寛は石神の顔を見つめた。「どうだ」「イギリスへ?」「そうだ。お雇い外国人のアンダーソン殿に、だれかイギリスに留学させたいと話したところ、留学させるのに大賛成で、高木(兼寛)が最も適していると言った。多分そのように答えると思っていたので、私も嬉しかった」兼寛は、放心した眼をしていたが、その眼が急に光をおび、「考える必要はありません。ぜひ、行かせて下さい」と、張りのある声で言い、頭をさげた。(上 151~152)

六 外科医最高の榮譽の学位を得て帰国

兼寛は、イギリス外科学校のフェローシップ免状を授与された。それは、外科医の最高の榮譽とされている学位で、医学校の教授になる資格も得たのである。フェローシップ免状を授与されたことで、兼寛の留学生としての医学修業は終わった。かれは医学を学習する身から教える立場になったのである。森公使は、兼寛が学位を得たことを喜び、留学生としての任務を終えたことも認め、「帰国は、君の自由だ。せっかくの機会だからイギリスの繁栄を見てまわるようにしたらよい」と、言った。(上 P304~305)

七 脚気の原因究明

明治五年(一八七二)に海軍軍医として海軍病院に勤務してから、かれは、病院内に脚気患者がきわめて多いことに気づいていた。故郷の穆佐村でも鹿児島でも、その病気にかかる者はいたが、海軍病院の病人の数は比較にならぬほど多く、ほとんど半数近くが脚気患者であった。イギリスでは脚気の患者が皆無であるというのに、日本では病人が多く、しかも海軍病院では患者数がきわめて多い。重症患者は、心臓発作を起して死ぬ。一晚に四、五人も死んだことすらある。海軍病院長として、この原因をつきとめ、有効な治療手段を得ることは急務だ、と思った。(下 32~33)

「お願いがあります」椅子に座った兼寛は、すぐに言った。白い髭をたくわえた戸塚が、兼寛の顔を見つめた。「局長も御存知のごとく、私は、脚気がなにに起因するか、あらゆる過去の資料を集め、水兵の食事の状態を視察し、鎮守府長官にもお願いして兵たちの実際に口にする食物の質、量も報告してもらいました」戸塚は、うなずいた。「それらの食物を分析した結果、蛋白質が極度に少なく、それに比して含水炭素が余りにも多いことを知りました」「一般人のことを考えましても、粗食になじんだ学生、商家の奉公人に脚気が多いのも蛋白質の不足が原因と思われ、兵に多いことも共通しております。この分析調査によって、私は、蛋白質と含水炭素の異常な比率が脚気発病の原因と確信するに至りました」兼寛は、張りのある声で言った。(下 P59~61)

九 イギリス医学の食物原因説 VS ドイツ医学の細菌原因説

石黒の黴菌説を強力に支持していたのは、陸軍の命令でドイツに留学していた一等軍医森林太郎(鷗外)であった。森は、脚気細菌説をかたく信じ、兼寛に激しく反論した東京大学医学部教授の大沢謙二の説を正論とし、兼寛の説を強く否定したのである。(下 P178~180)

十二 ビタミンの父

多くの欧米の医学者たちは、栄養バランスのくずれた食物の摂取が脚気の原因と主張した兼寛の説が、ビタミン B 欠乏を原因であるとする学説に発展したものとして、兼寛を脚気研究開発の第一人者としている。南極大陸に、高木の岬と名づけられた岬がある。その地一帯には、世界的に著名な栄養学者、ビタミン研究にいちじるしい業績をあげた学者の名が岬につけられている。むろん、日本人では兼寛の名前のみが岬に命名されている。(下 P310~311)

『世界のともだち メキシコ』 13

“織物の町の少女 リセット”

写真・文 長倉洋海 / 偕成社



オハカ州のテオティトラン・デル・バジェという山に囲まれた静かで小さな町に10歳のリセットは暮らしています。お父さん、お母さん、お姉さん、弟の5人家族で、他に父方の祖父母とおばさんが同じ敷地にある家で暮らしています。2軒の家はお父さんとおじさんがアメリカで働いたお金で建てたもの。リセットたちもこの家が建つまで、アメリカのロサンゼルスで生活していました。お父さんの仕事は織物職人。アメリカでは長距離トラックの運転手として働いていました。お母さんは町の市場に出店をもち、エプロンを販売しています。リセットは物をつくるのが大好き。作業に集中する時間が好きで、友だちと一緒にいても大騒ぎしないタイプです。将来の夢は「あまり考えたことがないけれど、シェフかな」と。となりに住むおばさんが手際よく料理するのを見て影響をうけました。でも、いまのところひとりでつくれるのはたまご焼きだけです。この町の住人約99%が織物に関係する仕事をしていて、いつでもどこからか機織(はたお)りの音が聞こえてきます。子どもころに機織りを教わったお父さんは、16歳でアメリカに働きにでてからも、機織りの仕事を忘

ませんでした。リセットはお父さんの工房ですごく時間が大好きで、よくお手伝いをしています。お母さんも家の中に仕事場をもち、チェックの布地にカラフルな花がらの刺しゅうをしたエプロンを作っています。リセットもお母さんから刺しゅうを習っていて、作品づくりに挑戦中です。毎朝8時までにリセットはお母さんと家から歩いて10分ぐらいの市場へ行き、お店を開けます。店を手伝う子供は少ないので、リセットは市場の有名人です。小学校は午後1時半から始まります。毎朝市場へ行き、家に帰ってから宿題を片付け、時間になると制服を着て学校へ行きます。リセットの小学校は、午前中の間、別の小学校が使っていて、ふたつの学校がひとつの校舎を共有しているのです。担任のアモス先生はやさしいけれど、授業にはよく遅刻してくるマイペースな先生です。最近、学校の先生達が給料をあげてほしいと要求するストライキをおこし、授業が休みになる日が多かったので、今はその遅れをとりもどすために、毎日6時すぎまで授業を続けています。10月31日、メキシコの伝統的なお祭り「死者の日」がやってきます。11月1日は子どもの、2日は大人のたましいがもどるといわれていて、町ではその前日からむかえる準備をします。死者の日にはマリーゴールドの花を飾る習慣があり、この日の墓地はオレンジ色の花でいっぱいになります。昨年自分の弟を亡くしたお母さんは「今日だけが特別ではないのよ」と言います。先祖や家族を大切にしてきたこの土地の人たちを見つめながら、大きく成長していくであろう世界のお友達の生活をのぞいてみてください。

『世界のともだち 南アフリカ共和国』 14

“シフィウェ 夢はサッカー選手”

写真・文 船尾 修 / 偕成社



ヨハネスブルグ近郊にあるかつての黒人居住区ソウェトに、12才の男の子シフィウェはくらしています。みんなからはジュニアと呼ばれています。ジュニアはお母さん、妹、弟、おばあちゃん、おばさん2人とその息子の8人でくらしています。ソウェトはアパルトヘイトという人種をわける政策によってできた町で、住民のほとんどが黒人です。ジュニアは生まれた時からお父さんがいません。ソウェトでは正式に結婚しないで子どもを育てるのはごくふつうのことで、むしろそういう家庭の方が多くいます。一家の大黒柱はおばあちゃんです。ジュニアは小学6年生。小学校は7年間です。南アフリカ共和国にはたくさんの民族がくらし、公用語は11言語もあるので、それぞれの民族や言葉によってちがう学校にかよいます。好きな教科は自然科学と英語。嫌いな教科は国語(ズールー語)。勉強よりもサッカーが大好きで、夢はプロサッカー選手になることです。もしプロになれば、お母さんのために大きな家を買ってあげたいと、はにかみました。社会科の授業では、つい最近まで黒人が白人に差別されてきた歴史、とくにアパルトヘイト(人種隔離政策)についてと、

その廃止に力をつくした、国民の英雄で元大統領のネルソン・マンデラのことをかなり時間をかけてくりかえし学びます。いちばん授業時間が多いのは、国語と英語です。そのためでしょうか、ほとんどの子どもたちは不自由なく英語が話せますし、授業も半分以上英語でおこなわれています。ふだんは、学校から帰ると家の周りの道路にあつまっている子どもたちにまじって歌をうたったり、おどったりしてあそびます。学年はばらばらですが、毎日顔を合わせているのでなかよしです。道路にロウ石で線をひいてあそぶ、石とりゲームや片足とびなどもよくやります。夕方、少しずつしくなったころ、近くの広いグラウンドにはボールを手にした男の子がぞくぞくとあつまってきて、サッカーの練習がはじまります。ユニフォームが買えなかったり、監督がたまにしかこなかったり、きびしい環境ですが、ジュニアは毎日ねっしんに練習しています。日曜日の朝は大切な礼拝があるので、教会に行きます。礼拝はアフリカらしく、たいこの演奏ではじまります。アフリカの人には歌と音楽が大好きなこともあり、賛美歌がみんなの楽しみになっているようです。ジュニアは司祭のお話のあいだはたいくつそうにしていますが、おいのりの時間はちゃんと目をとじておいのりしていました。なにをいのっていたかをたずねてみると「サッカーのユニフォームがほしい」ということだったみたいです。そんなサッカー大好きな世界のお友達の日常が描かれています。

国境を越えて生きるベトナム人 ●川島智江●

要 旨

2005年4月30日、ベトナム戦争が終結してから30年が過ぎた。今では、過去の産物となってしまったベトナム戦争だが、300万人以上の死者と大量の難民を出し、現在も多くの人間を苦しめ続けている事は確かだ。

正確な難民の数は明らかではないが、彼らは、自由を求めて世界中に散らばっていった。しかし、その自由への逃走には、大きな犠牲が伴った。それは、家族や恋人との離別、そして自らの命を失う事なのだ。たとえ、運よく一命を取り留めても、言葉も習慣も分からない土地での生活に苦勞を強いられるのだった。ベトナムを出た彼らは、アメリカ、イタリア、カナダ、日本などの国に新たな生活の場を求めた。難民たちは、異文化の中で、苦悩と葛藤を繰り返しながら、強く生き続けようとする。そして、たとえ異国にしようとも、彼らの心から故郷ベトナムが消える事はないのだ。また、離れねばならなくなってしまった家族への想いは、彼らの絆をより強いものにするのである。

新しい環境に戸惑い、翻弄されるベトナム難民たち。しかし彼らには、悲しみに打ちひしがれる暇など与えられないのだ。彼らは、親、妻、夫、そして子どものために生き続けなくてはならない。自分たちの生活、子どもの未来、また異国の地で育った子どもたちと理解しえない事などは、さらにベトナム難民たちを苦しめているのだった。アメリカ、イタリア、カナダ、日本などの国に離れねばならなくなってしまった家族たち。彼らはその悲しみを心の糧に変えて、強く生き続けていく。

プロローグ

第一部 命よ、つづけ（日本）

I. 布国からサボテンまでの距離

1. 窓辺のサボテン

2. タイプライターとぼく
3. 白い大地

II. 淡いオレンジ色の記憶

1. わたしのバイン・チュウイ・ヌウン
2. さよならアオザイ

III. そして車輪は回りだす

1. 自転車のふたり
2. 命よ、つづけ
3. やまない風

IV. アルバムは何色か

1. カセットテープの父さん
2. ふたりの母親

3. 憧れのベトナム

4. 真夜中の国際電話

第二部 帰れ、ベトナムへ（アメリカ）

I. 大きいアメリカに小さなベトナム人

1. ベトナムミーズ・パスポート
2. 嫁の味、母の味
3. ひとり

II. 黄ばんだランニングシャツと破れたジーンズ

1. ジャングルにて思う
2. シクロ走る

III. 予想通りで期待はずれな子どもたち

1. 愛情の行き場
2. クーラーと白いワイシャツ

IV. 帰れ、ベトナムへ

1. 父親の影
2. 帰るか、ベトナムへ

エピローグ

プロローグ

2005年4月30日で、ベトナム戦争が終結してから30年目を迎えた。1975年4月30日のサイゴン（図1）陥落により、南北に分断されていたベトナムは統一された。

1954年のジュネーヴ協定によってベトナムは、17緯度線を境に、北部の社会主義国家と南部の自由主義国家に分かれてしまったのである。そして、2つに分かれたベトナムを巡って、世界中を巻き込む戦争が1975年までに繰り広げられたのだった。30年もの間続いたこのベトナム戦争で、どれだけの人間が殺され、どれだけの家族が引き裂かれたのだろうか。

ベトナム戦争は多くの犠牲者を出したが、それがいつから始まり、対戦国はどこであったのかを明確にする事は不可能であろう。もし、アメリカの戦争としてベトナム戦争を見た場合、戦争から抜け出せない「泥沼化」の中でエスカレートしていった戦争であった[遠藤 2005: 15]。在南ベトナム米軍兵士は、1965年末の18万4,000人から、66年末には38万5,000人、そして67年末には48万6,000人へと増加し、アメリカはベトナムの泥沼に深く足を引き込まれていったのである[今川 1991: 87]。またベトナムの戦争として見た場合、それは同一民族間の戦争であった。南北ベトナムという分断国家間の戦争でもあり、また南ベトナムの中の「内戦」でもあった[遠藤 2005: 15]。つまりベトナム戦争は、自由主義経済を標榜する南ベトナム政府と、その打倒を目指す反政府勢力の間の対立と、アメリカの軍事介入によって勃発し、そしてそれに応じて社会主義国家たる北ベトナムが参戦した、という第二次世界大戦後の世界における最大の地域紛争だと言える[東 2000: 32-33]。

ベトナム戦争は、さまざまな価値観が複雑に絡み合った結果、引き起こされた。しかし、どれだけの複雑な原因があったにせよ、多くの死者を出した事に間違いはない。そして、多くの人々に悲しみを与えたのも事実だ。おおよそであるが、ベトナム戦争による死者は、アメリカ58,000人、南北ベトナム300万人、韓国などアメリカ同盟国軍6,000人にも及んだ[遠藤 2005: 14]。しかし、死者の正確な数が誰にも分かるだろう。誰にも知られずに死んでいった人間はどれだけいたのか。そして、戦争前後に大量発生した難民の存在も忘れてはならない。戦時中に命を落とした人々のほかに、自らの命を懸けて大海原へ飛び出したのち、命を落とした人間も数知れない。1975年4月30日のサイゴン陥落の前後、旧南ベトナム政府関係者を中心に約13万人が国外に脱出した。ベトナム統一

<<千の声 VOICE>>



<シチリアの城>

後に、南部で実施された急激な社会主義的改造もあって、ベトナム難民は1977年末までに20万人に達したと言われている。その後、ベトナム難民の数が増加の一途をたどり、1975年から1992年までに160万人にものぼったそうだが〔遠藤 2005:169〕。特に旧南ベトナム政府の高官や軍人たちは、共産主義者たちによって拘束されるのを恐れ、何か河でも国を出なくてはならなかった〔Ha 2002: 117〕。彼らは自由を求めて国外へ脱出していくのだった。

旧南ベトナム政府の要人たちがベトナムを去ったあと、共産主義者たちが社会主義政府を設立した。そして、旧南ベトナムにおいて共産主義に反撃をしていた人々を待っていたのは、ハノイでの社会主義的な改造プログラムであった〔Eisenhart 1983: 67〕。

難民としてベトナムを離れた彼らは、マレーシア、インドネシアなどの東南アジア諸国や日本、韓国といった東アジア諸国に受け入れられた。そして、それらの国々が設置した難民キャンプに収容された。そこで彼らは、アメリカ合衆国、オーストラリア、カナダなどの第三国への受け入れを待つか、そのままその国に定住するかという選択をした。

ベトナムが統一された1975年直後に国を脱出した人々もたくさんいた。しかし本稿では、新しく設立された社会主義国家ベトナムでの生活に順応できずに、国を脱出したあるベトナム人家族に焦点を当てる。たった1つしかない命を、小さな船に託して大海原へと出て行った彼らは、運良く日本とアメリカ合衆国にたどり着く事ができた。また、自らの命を懸けなければならなかっただけでなく、家族離散という目にもあわなくてはならなかったのだ。

ベトナム難民の場合、家族の一部が先に祖国を脱出するケースが多く、その過程で家族が複数の国に定住するというのがほとんどであった〔川上 1999: 365〕。ベトナム難民は、家族離散の苦しみを味わっただけでなく、文化も言葉も分からない国で生きなくてはならなかった。たとえどれだけの苦難や葛藤を強いられても、彼らは強く生き続けようとするのだった。本稿では、そんな彼らの生き様をライフヒストリーという形で表してみたい。

ライフヒストリーというのは、「語り手」と「聞き手」（研究者）との協力に基づいて作成された特定個人の歴史を指す。それは人間を研究する上で「個人的記録（personal document）」の一形態であるが、肝心な事は語り手と研究者との協力による合作であるという点であり、その協力の在り方を問う事である〔前山 1999: 140〕。普通ライフヒストリーは、フィールドワークの中でのインタビューによって得られる。インタビューからライフヒストリーへというプロセスは、語られた話を「人生」の物語に編成させるプロセスであり、他者へ経験を伝えようとするプロセスである〔小林 1995: 43〕。インタビューの主体である「語り手」とライフヒストリーを構成する主体である「聞き手」という2つの主体、つまり自分の過去の経験を語るといふ「語り手」、そして「語り手」の経験を解釈し、他者へも理解可能な物にしようとする「聞き手」、という2つの主体の間で、解釈の主体が移行していくプロセスである〔同上 1995: 67〕。そこには、われわれが歴史書などで認識するような歴史とのずれがあるかもしれない。しかし、1人ひとりの生きてきた人生、また経験された生における歴史が語られるなら、そのような個々人の小さな歴史に関して「語られた生」は、たとえばさやかな人生の物語ではあっても、歴史家がそれらの個々の人生を無視しつつ書きあげた歴史（それもまた記述されたストーリーである）を批判し拡充する根拠となりうると考えるのである〔中野 1995: 201〕。今では過去の産物となってしまったベトナム戦争だが、それがもたらした悲劇は知れない。そんな悲劇を乗り越え、懸命に生き続けようとする人間の姿を、ライフヒストリーという形で表したい。そこには、人間の生き続けようとする、生々しい情熱が存在しているに違いないと筆者は考えるからだ。

本稿は二部構成になっている。まず第一部では、日本にたどり着いたベトナム難民の苦悩と葛藤の日々を描いてみたい。1975年から1997年までに、日本にたどり着いた13,768人のベトナム難民たちの中で、日本に定住した者は3,529人であった〔遠藤 2005: 187〕。日本に定住する事を決めた難民の多くが、3〜4ヶ月の生活適応訓練を受けたあとに就職口を斡旋されて、転職や転居を繰り返しながら、自分たちの生活しやすい地域を探すのだ〔川上 1999: 364〕。日本に定住した3,529人の中に、ゲン・タン（山川一）はいた。ゲン・タンは1984年に難民として日本にやって来て、1988年にベトナムから妻と2人の娘を呼び寄せた。2000年、彼らは日本国籍を取得して山川へと改名した。しかし、彼らがベトナム名から日本名へと改名した事は重要ではない。いかに生きてきたかが重要なのだ。故郷を離れ、言葉も文化も分からない日本にやって来た彼らが味わった苦労が、並大抵のものではなかった事は言うまでもない。ただ平凡に生きようとしていただけなのに、逆らう事のできない時代の流れに翻弄され、さまざまな困難と葛藤にぶつかってしまったのがタン一家であった。さらに、彼らは家族の離散という悲しみも味わっている。ゲン・タンの妻であるチュン・ティ・チューの実の姉がイタリアに移り、実の弟とそのほかの親族たちはアメリカ合衆国やカナダに散らばってしまっているのだ（図3）。再会は容易にできないが、彼らは互いを想い合っているのであった。第二部では、アメリカ合衆国にいるチュン・ティ・チューの弟であるチュン・トンや、親族たちのライフヒストリーを描いてみたい。



<逗子の神武寺>

アメリカ合衆国に渡ったベトナム難民たちは、1975年のサイゴン陥落直後に脱出した人々、1976年から1979年にかけてボートで脱出した人々、1979年から1989年にかけて海路や陸路を使って脱出した人々、そして合法出国計画（Orderly Departure Program）によって国を離れた人に分ける事ができる〔Tran Thanh Dac 2000: 6-12〕。合法出国計画とは、1979年に社会主義共和国ベトナムと国連難民高等弁務官事務所（United Nations High Commissioner for Refugees）との間で締結された「合法出国に関する了解覚書」に基づき、家族再会や人道的なケースなどのみ出国を許されたという計画だ〔難民事業本部ホームページ 2006〕。また、アメリカ合衆国に到着した年代によって、ベトナム

難民に対する待遇には大きな差があった。その待遇について、フリーマンは次のように論じている（筆者訳）。

世界的にもアメリカ合衆国内においても好景気であった1975年、難民たちには、3年間の経済奨励、英語の習得訓練、そして就業訓練の機会が与えられた。1975年にベトナムを脱出した人たちは、旧南ベトナム政府の要人やその家族という知識層であったので、日常的に海外との交流があった。そのためアメリカ社会への順応は早かった。そして彼らの子どもたちも、学校や職場において優秀な成果を収め、障害なくアメリカ社会に順応していく事ができた。また、脱出できずにベトナムに残った旧南ベトナム政府軍の要人たちが、脱出に失敗して連れ戻された人たちは、再教育キャンプに収容された。再教育キャンプでの飢餓や重労働に耐えた彼らが、さ

<<国境を越えて>>

らに船で決死の脱出をしたあとに、アメリカ合衆国にたどり着いた1990年頃には、3年間の経済援助、英語の習得訓練、そして就業訓練は廃止されていたのだった。

[Freeman 1995: 41]

旧南ベトナム政府の要人ではなく、財力があつた訳でもないベトナム難民は、たった1つの命だけを持って、アメリカ合衆国でゼロからの生活を始めるのだった。

アメリカ合衆国にたどり着き、生活を始めたベトナム難民たちが直面した重要な問題は、文化の違いであった。家族が最も重要であるベトナム社会では、個々人が主体ではなく、家族との調和が大切だとされている。親は子どもたちを導く責任があると認識し、子どもは、両親を愛し尊敬すべきであり、そして両親に服従する子としての孝心を持つべきだというのだ [Tran Huong Hoai 1994: 15-20]。アメリカ社会で生活をする親世代のベトナム人たちは、言語や生活に対する苦悩よりも、彼らの子どもたちに対する悩みの方が大きいのではないだろうか。しかし、ベトナム文化を固持し続けようとする親たちに接している子どもたちにも悩みはある。アメリカ社会で育った子どもたちが、普段感じている精神的なストレスの一番分かりやすい例としては、文化の違いから日常生活の悩みを親たちと共有できない事、親の期待通りに学校で好成绩を収める事、そして親が期待する職業に就く事へのプレッシャーなどが挙げられる [Le 1988: 39]。

トラン・タン・ダックは、アメリカ合衆国に住む親世代のベトナム人と子ども世代のベトナム人の間に起こりうる誤解について考察し、彼らベトナム人がベトナムとアメリカの文化の違いを理解すれば、誤解を未然に防ぐ事ができると指摘する [Tran Thanh Dac 2000: 37-39]。さらに彼は、アメリカ社会とベトナム社会の違いをリストにして比較し、互いの文化を理解する事の重要性について論じている [ibid: 37-39]。

つまり、ベトナムで育った親世代のベトナム人も、アメリカで育った子ども世代のベトナム人も、互いに理解し合う事が双方にとって最良の生き方ではないだろうか。文化の違いから生じる親子の悩みは、チュン・ティ・チューの弟チュン・トンも味わっていた。

1982年、初めてアメリカ合衆国の地を踏んだトンは、南部のテキサス州ヒューストン (図2) で生活を始めた。彼の生活が安定するまでの苦労は、言葉では言い尽くせないだろう。インタビューの際は、多くを語ってくれなかったトンであったが、彼の表情がすべてを物語っていた。第二部では、トンを中心に、彼を取り巻く親族たちをライフヒストリーにまとめてみた。本稿で筆者が表したいのは、日本とアメリカ合衆国という異国の地で、強く懸命に生きようとするベトナム人の姿なのだ。

筆者は、グエン・タン一家、チュン・トンと彼らの親族へのインタビューを繰り返し、その内容をすべてテープに記録した。また、正式なインタビュー以外で、彼らとの何気ない会話の中で得た情報についても、文字としてできるだけ記録しておくように心がけた。そして、それらの情報を再編成し、彼らの生き様を1つのライフヒストリーにまとめてみた。本稿では、プライバシーを考慮して、グエン・タンをはじめ、主な登場人物の名前はすべて仮名にしてある。ベトナム、日本、そしてアメリカへと続く彼らの人生は、苦勞と葛藤に包まれていた。家族と離れねばならざるをえなかったその苦しみは、計り知れないものであった。しかし、彼らは決して悲しみを表には出さず、心の内に秘めた想いも強いが、それを生きる糧に変えようとする力も強いのだ。

第一部 命よ、つづけ(日本)

I. 布団からサボテンまでの距離

「俺は多くを望まない。仕事から帰って、家族5人がそろっていればそれでいい」

タンは、そう子どもたちに話す。

「ここには、あなたたちのほかに、家族が誰もいないのよ。わたしにはあなたたちしかいないの。なぜ何も話してくれないの」
学校での出来事を何も話さなくなった娘たちに、タンの妻チューは言った。

1. 窓辺のサボテン

タンの最近の楽しみは、家の小さな庭をいじる事だ。小さな家の小さな植物園は、年中賑やかだ。1年の間に、何回花壇の花を植え替えているのだろう。タンは、家の周りのわずかなスペースも見逃さない。土のあるところなら、どこにでも植物を植えてしまう。夏になると、家の脇でゴーヤの収穫ラッシュが始まるし、裏の庭ではミントが食べ頃だ。おまけにミニトマトも立派に育つ。タンは朝、仕事に出かける前に、必ず自分のかわいい庭を一周するのだ。そしてついでに、ゴーヤやミニトマトを収穫する。一通り見て回ると、満足げにバイクを走らせて社に向かうのだ。そして午後、帰宅した子どもたちに彼はこう言う。

「ほら見ろ。これは父さんが、朝のうちに庭で取って来んだぞ。大きいだろ、すごいだろ」

タンはゴーヤが特に好きだ。あの苦さが健康に良い、と子どもたちに薦め続ける。

「ゴーヤは、苦いけど薬みたいで健康に良いのだぞ」

真夏の食卓に、ゴーヤの卵とじが何回ならんだ事か。タンのお気に入りにはゴーヤだが、ほかの野菜に関しても、さまざまな知識を持っていた。

「カボチャは、頭瘤に効くし、頭が良くなるのだぞ」

食卓にカボチャ料理が出ると、決まって子どもたちにその効能を説いて聞かせるのだった。12歳になる息子のティンはまだ口癖になっていた。「うそっ!?!」長年聞かされ続けているランとルーは、あいづちを打つ。(つづ)



<シチリアの猫>



<逗子の猫>

●川島智江『国境を越えて生きるベトナム人 異文化間のコンフリクトと共生の研究』学術論文より

●原文のまま掲載 ■無断転載禁ズ ■写真:Kumi■

<<千の声 VOICE>>

□国境を越えて ～キューバとの出会い～



<シチリア/
チェファル駅>

キューバという国に魅せられて

かつてキューバという国に魅せられ、観光客としては飽き足らず、現地で暮らしてみようと思ったことがある。そしてキューバに憧れること2年——ようやく決心をした私は、4年間務めていた会社を辞めてキューバへ向かった。2001年9月16日——あの世界同時多発テロから5日後のことだった。多くの日本人にとってキューバとは、あまり馴染みがなく、イメージしづらい国だと思う。カストロやチェ・ゲバラに代表される革命の国とか、社会主義国といったごくわずかな知識はあっても、そこで暮らす人々の生活までは想像に及ばないだろう。私が「キューバ、キューバ」と言い出した時も、なにがいいのか、どこにあるのか、どんな言葉をしゃべっているのか、何から何まで質問攻めに合い、「いいよね!」と同調してくれる人はわずかだった。

ある一枚の写真に強く惹きつけられた

私とキューバとの出会いは2001年の渡航より2年前に遡る。当時CMの制作会社で事務の仕事をしていた私は、革命40年を迎えたキューバの素顔に迫る特集が組まれた「ナショナルグラフィック」を職場で偶然手にした。そしてある一枚の写真に強く惹きつけられた。首都ハバナ旧市街のある路地裏。コロニアル様式の建築物がずらりと並んでいるが、どの建物もすっかり色褪せ、朽ちた印象を受ける。穴ぼこだらけの路面には雨水がたまり、どこかの家の洗濯物が数枚、ベランダで風にたわんでいる。一見暗い印象を受けるこの写真には、上半身はだかの男の子が数人写っている。バットもグローブもないが、野球をしているのだろう。手足の長い彼らが走り回る様子には躍動感があり、色あせた風景の中であってひととき目をひく。——懐かしい感じがするな、と思った。キューバの写真を見るのは初めてだったし、ヨーロッパのコロニアル様式の建物も実際に見たことなんてないのに、“知っている”感じがした。その後ブラジルのサルバドールの旧市街とか、リオのファベラ（スラム街）の写真を見ても似たような錯覚を抱いたから、私に前世があったのなら、どちらかという貧しいこんな風景の中で生活していたんじゃないかと思う。とにかく、これが私とキューバの最初の出会だった。そして独身OLの気楽さで、わずか2ヶ月後に夏休みをとった私は単身キューバに向かうことになった。初めての一人旅だった。

高校1年生でアメリカ短期留学

海外一人旅が全くの初めてかといえば、そういう訳でもなくて、高校1年生の時にホームステイで、アメリカのユタ州セントジョージという、モルモン教徒が多いとされる町に3週間ほど滞在したことがあった。ただこの時は、まだ未成年だったし、成田空港に他の参加者と集合して、お世話係の人がアメリカのホストファミリーに引き渡すまで面倒を見てくれた。私は、一旦ホストファミリーの家に到着したら、そこから先は英語だけで生活をするという未知の体験に、憧れと緊張感を抱いて渡米したのだけれど、実際の生活はイメージとは全く違っていった。時代はバブル経済真っ只中で、アメリカにはたくさんの日本人留学生在がいた。私は同行した日本人女子二人と一緒にあるステイ先に送りこまれたうえ、その家にはすでにトオルさんという大学生が滞在していた。わざわざアメリカに来てまで日本人と一緒にいることに違和感を抱いた私は、理想のアメリカ短期留学を実現すべく、現地でホームステイ先を日本人のいない家庭に変えてもらい、なんとかアメリカ人オンリーの生活に馴染もうと頑張ったが、プログラム自体が多くの日本人留學生との団体行動を元に組まれていたから無理があった。午前の英語クラスが終わると、みんなで乗馬をしたり、バーベキューをしたり、なんだかんだ言いながら他の日本人参加者と行動するうちに三週間はあっという間に過ぎ、英語を勉強したというよりは、異国での楽しいひと夏の思い出を抱えての帰国となった。

ただ、この短期留学が私に与えた影響は大きい。ホストファミリーは私のことを子供扱いせずきちんと意見を聞いてくれたし、家でごちゃごちゃと建て込んでいた日本と違ってアメリカはすべてが大きく広々としていた。サマータイムの影響もあってか、夜の8時になっても日は明るく、一日を思う存分楽しめる気がした。数えきれないほどの流れ星を見ながら、家の前に置いてあったトランポリンで寝た夜もあった。「アメリカンドリーム」の言葉の通り、アメリカでだったら自分のやりたいことにどんどんチャレンジできるような気がした。

高校生の頃の叶わなかった夢

当時、私は私立の中高一貫校に通っていたのだが、その学校にどこか馴染めずにいた。だから私は、帰国後すぐに日本の学校を辞めてアメリカの高校に通おうと決心をした。ネイティブみたいにきれいな英語をマスターするには、なるべく若いうちに留学をした方がいいと思った。でも、きっと生まれて初めて何かをしたいとはっきり思った私の夢は、残念ながら叶わなかった。母は「そんなお金、うちにある訳じゃないじゃない」と言ってそれ以上は聞く耳を持たなかったし、私には航空券を買えるような貯金もなかった。バイトは禁止されていたし、今みたいにインターネットもなく、アクセスできる情報はとても限られていて、世間知らずだった私は、奨学金とかを利用するような考え



<横須賀線/逗子駅>

も思いつかなかった。親の敷いたレールからそれて何かをするということが、とても難しいということを知った。その後日本の大学に入学したけれど、残念ながら何を学びたくて大学に行くのかよく分からないまま、受験戦争の波にのまれて進学してしまった感がある。英語は一定の期間得意だったけれど、日本では話す機会も

<<国境を越えて>>

少ないことから、だんだんと興味を失ってしまった。そして気がつけばバブルは崩壊し、時代は就職超氷河期に突入していた。大学を卒業しても仕事を見つけるのは本当に大変だった。自分が何をやりたいのかなんて相変わらずよく分かっていなかったけれど、分かっていたとしてもその道に進むのはとても難しい時代だったと思う。メキシコで息子が生まれたとき、平均点を取れる子よりも、得意なことを伸ばせるように育てたいと強く思ったのは、こんな自分の過去が影響しているのかもしれない。

社会人1年目の父の死

やっとの思いで就職をした社会人1年目の6月、父がすい臓がんで亡くなった。がんが見つかったから3ヶ月だった。母はその数年前から続いた義母の介護の疲れもあって、睡眠薬を処方されるようになっていた。弟はまだ高校生で、兄は独立していた。父を亡くした後のことは、大変すぎてあまりよく覚えていない。就職先は小さな広告代理店で、今でいうならブラック企業。たとえば仕事がない日でも、上司より先に家に帰るなんてことはあり得なかった。上司はダラダラと10時ぐらいまで会社に残っているのが常だったため、私の帰りはいつも深夜となった。

当時町田に家を建てていて、結局父はその家の完成を見ることもなく亡くなってしまったのだが、新しい家をめぐる打ち合わせは、当時の私には重くのしかかり、ようやく家が完成して引っ越しが終わると、通勤時間が一気に倍増し、帰宅時間はさらに遅くなった。

結局私は、この会社を一年で辞めた。病気だった父がなんとか見つけてくれた会社だったので、辞めるのには後ろめたさもあったが、とにかく辞めた。氷河期を乗り越えて就職したのに、23歳で失業してしまった。貯金はゼロ。5月には前年度の収入に対する住民税の請求書が届き、収入もないのにどうやって払おうかと頭を痛めた。母に振り込みを頼まれた弟の大学の授業料が数十万円手元にある、札幌のわずかな重みがどっしりと感じられた。

新たな職場でキューバと出会う

半年ぐらいの失業期間を経て次に就職をしたのが、CMの制作会社だ。新卒で仕事を探していた時とは比べようもないほど、今度はあっさりと仕事は見つかった。そして事務職としての将来に不安を抱えて、これから先、手に職をつけるにはどうしたらいいのか考えながら働いていたとき、キューバと巡りあった。職場には個性的な人が多く、中でも独身女性は、休みになると海外に一人でふらりと旅に出してしまう社会人バックパッカー的な人が少なくなかった。また当時の私にはマニアックなことに興味を持っている編集者の知り合いが多く、彼らが当時あまり情報のなかったキューバ行きを全面的に後押ししてくれた。

占いで大殺界とか言われるように、残念ながら人生にはどんなに頑張ってもなかなかうまくいかない時があると思う。私の場合、高校時代にはアメリカ留学の夢を叶えることができず、新卒時にはなかなか仕事が決まらず、20代の前半で突然父を亡くした。でもキューバの写真と出会った頃から、面白いぐらい順調に人生が切り開けていく感じがした。自分の興味を広げてくれる人に出会ったり、頑張らなくても必要な情報が集ったり、波に乗っている感じがした。すでに社会人になっていた私は、高校生だった頃と違って、自分でお金を捻出し、自由に旅行をすることができた。——危ないかと反対する人もいたけれど、キューバに行ってみようと思った。

10代のアメリカ短期留学を経て、次に私が興味を持ったのは、皮肉にもアメリカと対立する国、キューバだった。そして自分が高校生から社会人になる過程で、ソ連の崩壊により冷戦時代は終わりを告げ、あれほど魅力的だったアメリカも少し力を失いかけている気がした。少なくとも私の心はもうアメリカには傾かなくなっていた。

キューバに行こう——こうして、1999年9月、まずは旅行者として…

●キョウコさんからの VOICE(つづく) ■写真:kumi■

※「千の声 VOICE 2021 年 春号」の原稿を募集しています。

<千の声 VOICE> 欄に読み書き算数塾とわが子の歩み…わが子の成長…を掲載します。

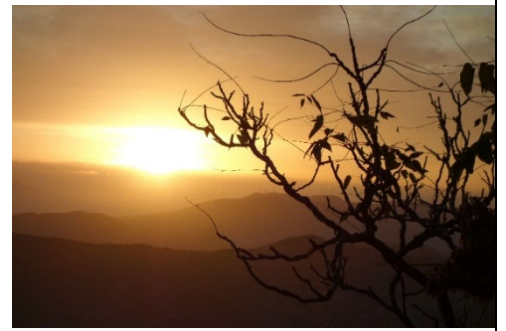
春号は、生徒の皆さんの一年の成長を掲載したいと思っています。特に今年は、3月からの新型コロナウイルスによる休校などがあり、学習形態の変更を余儀なくされました。そんな中で、子どもの学びを止めないために…取り組んだこと、大変だったこと、良かったこと、親子のかかわりの変化など…沢山の成長があったと思います。そんな一年の歩みを…成長を…思いのままに…緩ってみませんか。掲載する名前は、仮名やニックネームでも構いません。何年後かに読み返したときに…こんなこともあったな…ときっと懐かしい思い出がよみがえりますよ。(原稿は、塾長宛にメールで1月末までにおねがいします♡)

<<石川塾の遠足>>

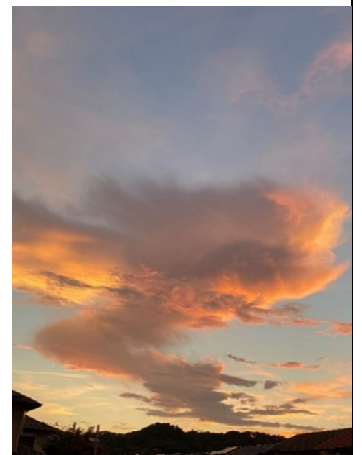
♡塾生以外の方もお気軽にご参加ください♡浜辺を…山を…駆けまわろう♡

10/24 片瀬江ノ島駅集合～片瀬海岸～七里ガ浜～稲村ケ崎(砂鉄集め)～(戻り)片瀬江ノ島駅

11/29 逗子駅集合～逗子海岸～披露山～小坪～光明寺～材木座海岸～妙本寺～(海・山・寺あり)



<シチリアの夕陽>



<逗子の夕焼雲>

アンとアナのものがたい(成長日記)

☆アン：3年生になり…初めての検定試験トリプル受験♡

【漢字検定8級・算数検定9級合格！！】

長いコロナ休暇中、検定試験の合格を目標に毎日コツコツ試験対策に取り組んだ。結果…漢字検定8級、算数検定9級にダブル合格することができた。試験後本人も手ごたえを感じた様で「多分大丈夫！分からないところはなかった！」と満足そうだった。英検3級は残念ながら合格できず…。リスニングリストはほぼ全問正解ながら…リーディングテストとライティングテストは足踏み状態。やるべきことがはっきりしたので、10月は英検3級合格に向けて毎日コツコツ頑張ろうと頑張っている。コロナ期間中に始めた“名作名文のあらすじ書き”も週に1題のペースで楽しみながら取り組んでいる。先生から、「回を重ねて少しずつあらすじ書きも上達している」とお褒めを頂き、得意気(笑)Q&Aも“面白い♡”と週1題取り組み続け…現在5年生分が終了間近だ。学校が再開してから、休暇中に始めたことを毎日出来るなくても日を決めてコツコツ…自分で進められるようになったことは大きな成長だなと感じる。休暇中に変わったことと言えば…新体操の練習が施設の都合上で

きなくなり…子どもたちが“テニスをしたい♡”と言い出しテニスに転向した。毎週のレッスンで上達してくるのがわかると、“早く次のクラスに進級したい♡”“試合に出たい♡”新しい目標に向かって頭も体も心も成長中♡

☆アナ：年長になり…はじめての算数検定♡

【かず・かたち検定ゴールド合格！！】

“かず・かたち検定っていうテストがあるけどやってみる？”アナに問いかけると、“おねえちゃんもやってる？”“そうそう、お姉ちゃんがいつも石川塾でテスト受けてる”“やったー！私もうけていいの？”こういうやり取りで、かずかたち検定に挑戦することに。何でも姉と一緒にないと“お姉ちゃんばかり、ずるい！”を連発するお年頃。テストでもなんでも、お姉ちゃんがやるものはやりたい。いつもは…あ～またか…と思うところだが、今回は逆にこれを利用してまんまと作戦成功です。公益財団法人日本数学検定協会より発売の『かず・かたち検定対応ドリル』を使用して対策しました。“かず”“かたち”“すいり”に分かれており、毎日それぞれ1枚ずつ解いていく。積み木問題と観覧車問題は、少し苦戦したため、理英会出版の積み木の数と観覧車問題の基礎、応用を使用して理解を深めた。すべて終了し、過去問を解いたが、問題文の読み違い以外は正解出来ており、自信を持って会場へ。緊張した顔で入室…試験が終わって出てくると、その緊張が解けて異常なほどのハイテンションに。一緒に検定を受けたお友だちと30分ほど大騒ぎしていた。結果がわかるまで“合格かな～賞状もらえるかな～”と結果をととても楽しみに待って…結果は合格！！賞状をもらってもじもじ恥ずかしそうにしている(笑)これが自信となり、1年生のお勉強にもやる気が出て、今は漢字の読み書きを頑張っている。『白川静文字学に学ぶ漢字なりたちブック1年生』(太郎次郎社エディタス)と『ドラえもんはじめての漢字ドリル1年生』(小学館)を使用し、毎日漢字2文字。昔の漢字を色塗りしたり、なりたちを唱えたりして楽しく取り組んでいる。算数は時計問題にやや苦戦…分針を読むのがメンドクサイと…5分刻みはマスターできたので、地道に少しずつ取り組んでいく。姉同様テニスををはじめ、めきめき才能開花中…。経験者の私も…センスあるな♡と思えるほどの習得ぶり…楽しみ楽しみ♡

アンとアナの本棚

「あしながおじさん」

ジーン・ウェブスター
/ 講談社青い鳥文庫



「長くつ下のピッピ」

リンドグリーン/岩波書店



「ねむいねむいねずみのあまやどり」

佐々木マキ/PHP 研究所



「虫ガール」

ソフィア・スペンサー/マーガレット
・マクナ马拉/岩崎書店



☆パパ日記 20年ぶりの…

最近自宅にいる時間が以前と比べて圧倒的に増えた。週末は出かけることが多かったのが最初の頃はすごそうかと困った。You tube や ipad といった偉大な文明のお力を借りることもあるがずっとというわけにもいかない。子どもたちと何かいっしょにできることはないかと考えたのが週末に料理をすることだった。自分は大学生で一人暮らしを始めた最初の頃にほんの少しだけ(数か月くらい)台所に立った程度で以後は全く料理などしていなかった。我が家の台所も完全にアウェーな場所であった。妻の助けは借りずにパパと子どもたちだけで作る計画だ。失敗すると空腹なのに夕飯がない！という非常にやばい状況に陥る可能性がありリスクは冒せない。まずはいちおう経験のあったカレーライス(ゴールデンカレー甘口)を選択した。妹がお米をといでご飯を炊き、お姉ちゃんがたまねぎを切っていると妹が「お姉ちゃんずるい」の一言。そのお姉ちゃんも涙でギブアップ。バタバタと悪戦苦闘しながら何とか完成しいざ実食。とりあえずみんなが食べてくれて一安心でした。

●4歳～6歳（年少～年長）小学校入学準備

●月曜と金曜 午後3時～5時

「～読み書き算数・思考力～」基礎から丁寧に

◆石川塾では小学校に入学したときに、教科学習にスムーズに取り組めるように「かず」「りょう」「かたち」の概念が理解できるところから「すいり」まで、**学習の基礎を丁寧に**教えていきます。また、子どものつまずきや、理解度に合わせた指導をしています。※年長児2名が6月にかず・かたち検定ゴールドに合格しました。

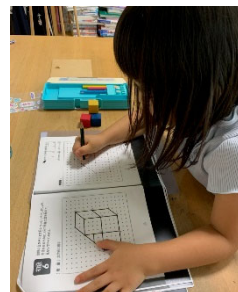
～幼児クラス(就園児)の授業の内容～※親子で一緒に学ぶクラスです

- ◎朗読暗唱…楽しみながら、リズムよく朗読暗唱♪絵本朗読もあります♪
- ◎ことばの取り組み…ひらがな・カタカナの読み書きの練習、言葉遊び♪
- ◎かたちの取り組み…パズル、パターンブロックなどで遊びながら学びます♪
- ◎かず・りょうの取り組み…くりあがり・くりさがりの計算まで進み、百ます計算へ♪
- ◎かず・かたち検定の取り組み…学んだことをテストで確認！検定対策あり！
- ◎就学前の取り組み…入学前に、読み書きや計算、時計の見方・順序・前後左右の位置などの知識を身につけます

◎NEW♡白川静 文字学に学ぶ漢字学習…正しい漢字の成り立ち、1年生の漢字の読み書きをはじめました♡



ハエたたきかるたタイム♡



つみきでしっかり確認♡

●2歳～3歳 親子で！入園準備

●月曜と金曜 午前10時～12時

～幼児クラス(就園前)の授業のながれ～※親子で一緒に学ぶクラスです

子どもが自分から集中して何度も繰り返す行動をよく観察し、環境と指導を提供します。

- ◎絵本のよみきかせ…おすすめの絵本♪
- ◎ことばの取り組み…カードなどを使いことばを学びます♪
- ◎かたちの取り組み…パズル、つみきなどで遊びながら学びます♪
- ◎かずの取り組み…つみきやブロック、知育玩具などで学びます♪
- ◎りょうの取り組み…つみきやブロック、知育玩具などで学びます♪
- ◎その月・季節の取り組み…テーマをもとに、興味のあること学びます



墨流し♡輪っかができた♡

●「小学校受験サポート」年少から・時間はお相談ください

◎プロフィール◎

★講師:わたなべ みつき

★2児の母(小学3年生…小学校受験 年長…幼稚園受験 女の子2人)

★資格:(公財)日本数学検定協会認定資格「幼児さんすうインストラクター」
ホームメイド・モンテッソーリ認定講師講座受講中

★他に看護師国家資格あり 大学病院・療養型病院に勤務経験

★石川塾に6年前から親子で通塾し、石川塾長のノウハウを教わる

★石川塾にて「ワークショップ」「Weekly・Monthly」「千の声 VOICE」を担当

★子どもに教えているうちに、教えることが楽しくなり上記資格取得のため
インストラクター養成講座を受講し「幼児さんすうインストラクター」となる



いろいろの変化に夢中♡

子どもが何かを発見した時の“ニパッ♡” わかったときの“ニコッ♡”
と表情が輝く時間を体験しませんか。

生徒募集中！紹介者には謝礼あり！

体験授業は3回無料です。まずは授業体験を…お待ちしております。

お問合せは…TEL042-710-5768 読み書き算数 石川塾
担当:ワタナベミツキ

子ども・お母さんたちが借りて読んでいる本（2019年10月～2020年3月）

2019年10月

バスタぎらい
地球生まれで旅育ち
イッキに読める 宮沢賢治
生命とリズム
巨大空港
新型ウイルスのサバイバル
世界地図のふしぎ発見 100
かいけつゾロリのにんじゃ大さくせん
ファール昆虫記7 アリやハエのはたらき

2019年11

かいけつゾロリのにんじゃ大さくせん
かいけつゾロリ大けつとう!ゾロリじょう
かいけつゾロリつかまる
昆虫世界のサバイバル①
スティーブ・ジョブズ 1・2
レイチェルと滅びの呪文
はははのはなし
あいうえおでんしゃじてん
スティーブ・ジョブズ 3・4
ざんねんないきもの事典
昆虫世界のサバイバル①
昆虫世界のサバイバ③
レモンをお金にかえる方法
小怪談
ズバビタ 社会 地理
単位物語
はじめてわかる国語
アラジン
世界は分けてもわからない
カッコよく生きてみないか!
続・レモンをお金にかえる方法
南極のサバイバル
かいけつゾロリのにんじゃ大さくせん
ピンポンパス
へんしんマラソン
たった40分で誰でも必ず小説が書ける
ショートショート講座
こども小説教室
日本の生き物図鑑
どうくつのサバイバル

2019年12月

いろいろおにあそび
でんしゃのたび
おしりたんてい カレーなるじけん
地球冒険 62 万キロ
こころ彩る 徒然草
使える!徒然草
かいけつゾロリのにんじゃ大さくせん
ウスケボーイズ
人間生命の誕生
卵が私になるまで
ビヨンド・エジソン
科学の扉をノックする
選べなかった命
算数検定 11 級
かいけつゾロリのドラゴンたいじ
ざんねんないきもの事典
かいけつゾロリのにんじゃ大さくせん
かいけつゾロリママだいすき
スティーブ・ジョブズ 5.6
お金は木にならない

かいけつゾロリのにんじゃ大さくせん
巨大空港
続・ざんねんないきもの事典
わけあって絶滅しました
かいけつゾロリのにんじゃ大さくせん
かいけつゾロリの大けつとう!
ゾロリじょう

のび太という生き方
本当にあった?恐怖の話 闇
おちゃめなふたごの探偵ノート
ロボット世界のサバイバル②
ロボット世界のサバイバル③
記憶力を強くする

2020年1月

レモンをお金にかえる方法
あおいめ くろいめ ちやいろのめ
せいめいのれきし
かいけつゾロリのにんじゃ大さくせん
ピーターパン
かいけつゾロリのにんじゃ大さくせん
文明の迷路
うまうまニッポン! 食いだおれ二人旅
タンタンタンゴはパパふたり
バレエ整体
かいけつゾロリの大ききょうりゅう
ドラえもん 続・文章題がわかる
タイムトラベラー ウォーリーをおえ
また ぶたのたね
ぶたのたね
せいめいのれきし
おしりたんてい カレーなるじけん
かいけつゾロリのきょうふのサッカー
ドラゴン桜 東大合格をつかむ言葉
ドラえもん 文章題がわかる
ピンポンパス
つぎ、とまります
ウォーリー ふしぎのたび
ブラジルの本
アナキズム・イン・ザ・uk
かいけつゾロリのにんじゃ大さくせん
世界のともだち ネパール
世界のともだち フランス
世界のともだち バングラディッシュ
マンガでおぼえる 10 さいまでに覚え

たい言葉
わけあって絶滅しました
生まれたときからせつない動物図鑑
動物たちの自然健康法
ぼくのいまいるところ
自然史ミュージアムのサバイバル①
洞窟のサバイバル
クジラがクジラになったわけ
ふしぎなことば ことばのふしぎ
ギリシア神話
アマゾンのサバイバル
おしりたんてい かいとうとねらわれ
たはなよめ

やねの上のにゅうしちゃん
わるいことがしたい
かいけつゾロリ チョコレートじょう
おしりたんてい ふめつのせつとうだん
失敗図鑑 すごい人ほどダメだった!
だるまちゃん とらのこちゃん

わたしがあかちゃんだったとき
2020年2月
おしりたんてい かいとうとねらわれた
はなよめ
おしりたんてい みはらしそうのかいじ
けん

ABC 殺人事件
注文の多い料理店
きょうりゅう世界のサバイバル②
おしりたんてい かいとう VS たんてい
ひなちゃんとふりかえる平成史
あなたのいえ わたしのいえ
砂漠のサバイバル
かいけつゾロリ けっこんする
あるきだした小さな木
でんしゃはうたう
りゅうがります
世界のともだち バングラディッシュ
世界のともだち フランス
世界のともだち ケニア
生まれたときからせつない動物図鑑
ぼくはイエローでホワイトで、ちょっと
ブルー
おしりたんてい かいとうとねらわれた
はなよめ

世界の果てでも漫画描き
ロボット世界のサバイバル
なぞなぞはじまるよ②

2020年3月

やねの上のにゅうしちゃん
ぶたのたね
またぶたのたね
呼吸入門
ビヨンド・エジソン
ケーキの切れない非行少年たち
選べなかった命
りゅうがります
ブルーノのふしぎな電話
かいけつゾロリ けっこんする
段取り力
オリンピック・キュクロス①②③
おしりたんてい カレーなるじけん
続・ざんねんないきもの事典
こども六法
自然史ミュージアムのサバイバル
りゅうがります
ありがとう トワイライトエクスプレス
でんしゃでいこう
失敗図鑑 すごい人ほどダメだった!
昆虫世界のサバイバル
あいうえおでんしゃ
あかにんじゃ
ことばの発達の謎を解く
言葉をおぼえるしくみ
夏休み 子ども科学電話相談
ロイヤルバレエスクールダイアリー
ライオンキング
世界一の旅
ドリトル先生航海記
最高の子育て
世界のともだち フランス
昆虫
数と図形の発明発見物語

<<石川塾の肝心要 ～要旨要約～>>

□石川塾の肝心要 ～自分で生きていくための要旨要約～

皆さん要旨要約をご存知ですか？石川塾では授業の前に要旨要約をやります。まず全体を通してこういった物語なのか20字程度で書きます。そうして具体的に、またこの物語が伝えたかったことを200字で書くというものです。石川塾では夏目漱石の夢十夜の第一夜が最初の題材です。この物語は男が死んだ女を100年待つ話とでもいいましょうか。すごく独特なお話で初めの題材としては難しいかもしれません。ただ慣れてくるととても面白いものになります。まず自分では手に取らないような本を読めてそれが知識に繋がりがそこから大切な部分を抜き出しそれが取捨選択の上達に繋がります。また本から学ぶことは沢山あります。例えば私がすごく考えさせられた題材は“人にはどれだけの土地がいるか”という物語です。自分が歩いた分だけ土地をもらえる、そのかわり夕暮れになるまでに歩き始めた場所に戻って来ることが条件というお話です。この物語では人の強欲さがわかりやすく描いてありとても読みやすく考えさせられるものになっています。沢山の本を読み自分の考え方が変わることさえあります。すごく自分にとってプラスになるもので石川塾ならではのものです。物語以外にも論文のようなものもあります。論文といってもそんなに堅苦しいものではなく私たちの生活をよりよくしてくれることが書いてある参考書みたいなものです。齋藤孝の本です。この本で私の考え方はガラリと変わりました。“やるべきことはやろうと思ったらすぐ行動する”私はこれを読むまでギリギリまでやらずにいた人間でした。さらにやるまでにすごく時間がかかっていました。けれどこの本にやろうと思ったらとりあえず体を動かし始めるといいということが書いてあったため実践してみるとすごくやる気になりました。こんな本も要旨要約します。悪い習慣や自分の考え方が変わり要旨要約の力がつくなんて一石三鳥くらいありますね。石川塾では勉強だけでなくこういった力もつけさせてくれます。

●マイ先生からの VOICE■

□石川塾・塾生の 200 字要旨要約文 (齋藤孝『理想の国語の教科書』青版/赤版/緑版より)

■夏目漱石「夢十夜」第一夜

一文要約:死んだ女が百合になって百年後男に会いに来る話。

本文抜粋: 枕元に坐っていると、仰向けの寝た女が、静かな声でもう死にますと云う。女が又こう云った。「死んだら埋めて下さい。又逢いに来ますから。」女は一段張り上げて、「百年待っていてください。」と思いついた声で云った。自分は苔の上に坐った。それでも百年がまだ来ない。自分は女に欺されたのではなかろうかと思いだした。すると石の下から斜めに自分の方へ向いて青い茎が伸びて来た。自分は首を前に出して冷たい露の滴る、白い花瓣に接吻した。●シンペイ君(小4)の要旨要約■

■小林秀雄「モーツァルト」

一文要約:モーツァルトの子供らしさという言葉に応じておもいめぐらす話。

本文抜粋:。この手紙はモーツァルトの天才の極印として、引用された。確かに理由のない事ではない。どんな音楽の天才も、自分に一番大切な事柄について子供らしく語った人もいなかったのである。修正の跡もとどめぬ彼の原譜は、彼が家鴨や鶏の話を書きながら書いた事を証明している。これを語るモーツァルトの子供らしさという事になると、子供らしさという言葉の意味の深さに応じていろいろ思案を廻らす余地がありそうに思える。

●ナオキ君(小5)の要旨要約■

■幸田文「なた」

一文要約:文が父に薪割りを通して、渾身のかまえを教わる話。

本文抜粋: 鉈を持った最初は、風呂を焚く為からであった。うじうじとふりおろす後ろから、石が飛んで来たのだ。「もういちど、やってみよう。」立っている脚から踏みしめる気が起った。畢竟、父の教えてくれたものは技ではなくて、渾身ということであった。どこから手をつけていいかわからないくらいすねていた。私は少しずつかき取って砕いた。「とうとうやられちゃがった」と云った。これを聴いて私は、何かを得たような気がした。

●ユウキ君(小6)の要旨要約■

■編・広島テレビ放送「いしぶみ(碑)ー広島二中一年生全滅の記録ー」

一文要約:生きのびたかのように見えた人たちが次々に死んでいき、爆弾によって一人残らず全滅する話。

本文抜粋: 桜美一郎くんは、お父さん、お母さんに船入の救護所から吉島町の社宅にはこぼれ、十一日午前八時十分、お父さんの好きだった軍歌をうたってもらい、それを聞きながら死んでいきました。桜美一郎くんは八月六日が誕生日でした。誕生祝いもいいといっ、六日朝早く五時いそいで家を出たのでした。桜美一郎くんが最後の死者でした。本川土手に整列した広島二中一年生、三百二十二人と四人の先生はこうして残らず全滅しました。●ミオさん(中2)の要旨要約■

■中島敦「名人伝」

一文要約:紀晶が師の飛衛になろうと訓練して殺そうとしたが、相打ちし相抱いた話。

本文抜粋: 紀晶が師飛衛に瞬きせざることを学べと命じられた。紀晶は妻の機織台の下に潜りじっとみつめ、自信がついた。次は、視ることを学べ。と言われ一匹の虱を見詰めた。三日目には蚕ほどの大きさにみえ、師に報ずる。飛衛は射術を剩す所なく授けた。学び取るべきものがなくなった紀晶は、敵すべき者は飛衛において外に無と思ひ、矢を取り狙いをつけたが、飛衛もまた相応ずる。矢が尽きた時二人は相抱いて師弟愛の涙にかきくれた。●リオンさん(中2・カナダ在住)の要旨要約■

<<読み書き算数 石川塾 からのVOICE>>

<わかる・できる・喜ぶ・国語専科/算数数学専科/単元学習のススメ>

◆むずかしいことをやさしく/やさしいことをふかく/ふかいことをたのしく◆

石川塾の単元学習講座！月に4回4時間でクリアしていくことのできる講座です。苦手な単位や図形問題も、やさしく、ふかく、たのしく学べる石川マジック登場♡国語専科22講座・算数数学専科22講座ともに大人向け講座もあります。

- 希望する講座をいつでも受講できます(ひと月4時間)。
- 希望の曜日時間帯に受講できます(平日15:00~21:00)。
- 通常授業と組合せて受講できます。(通常+専科受講)。
- 親子別々でも一緒でも受講できます(受講料は個人別)。
- 副教材作り教材テキスト付きです(一部市販図書購入有)。
- ひと月目のみ1講座4時間2000円(1時間500円)。
- 受講時間・期間の延長ができます(通常授業料の10%引)。
- 教材資料代施設費ひと月1500円(新規塾生)。

※専科コースは単元別・講座別を選択し受講しますので選ぶ際は塾長とよく相談してください。

中学受験生向けおススメ講座はこちら↓↓

■国語専科■1.イッキよみクイズ講座(名作シリーズ:クイズに挑戦!)/3.名作あらすじ講座(名作シリーズ:ここが好き!)/4.理想の国語教科書講座(原稿用紙に200字要旨要約)/11.二元論で考える講座(上位難関校秘伝中学入試国語読解法)/12.公立中高一貫校講座(適性検査1:南多摩・相模大野ほか)/15.漢検1級目指そう講座

■算数専科■2.真珠いちもんめ講座(単位換算定規を作ろう)4.コロコロ円高講座(円の転がり問題攻略法!)/5.くると一回転講座(回転体見取図攻略法!)/6.さいころすてーき講座(立方体切断面攻略法!)/11.私立中学入試算数講座(玉川・共立女子第二・帰国生枠ほか2科)/12.公立中高一貫校講座(適性検査2:東京・神奈川)

高校受験生向けおススメ講座はこちら↓↓

■国語専科■4.理想の国語教科書講座(原稿用紙に200字要旨要約)/13.高校入試国語講座(評論入門/小説入門のための高校入試国語)/14.国語口語文法講座(言葉の決まり/言葉の使い方/言葉の知識)/15.漢検1級目指そう講座(子供も大人も生涯チャレンジ!)

■数学専科■13.描いて解く幾何講座(直線図形/円・三平方の定理/立体・座標)/14.都立高校入試講座(一次二次関数・平面立体図形)/15.数学授業実況中継講座(難関校高校入試の図形問題)/16.大人のための数検講座(11級~3級合格まで)



□塾の遠足「ききたい」「たずねたい」「参加したい」(いつでもなんでも気軽にコール/☎042-710-5768)

●わが子と遊ぶ/わが子に学ぶ/わが子と歩む/わが子の歩み/鎌倉逗子葉山だれもしらない土の道を歩く/塾の遠足はほぼ毎月家族友だち知人どなたでも参加できます/2歳からの読み書き算数塾・大人のための石川ゼミ/本がいっぱいの教室/夢中な本/午前・午後・夜間いつでもお越しください/お友達の写真はホームページでご覧になれます ■「読み書き算数塾石川ゼミ」検索■

□はじまり(脱いだ五足の靴のお母さん方と)

●読み書き算数塾・石川ゼミに親子で入塾し、石川剛先生から勉強だけでなく、子育てのヒントやからだを作ることなど多岐に渡る教を頂戴しております。石川塾長を慕い集まってくくださった私を含め5名のお母さまとともに石川ゼミで出会った沢山のVOICEを発信したいと思い立ち上がりました。この千の声を手に取ってくださった方のお役に立ていただければ幸いです ■編集長・渡邊光樹からのVOICE■

□毎週火曜日/ホームページの「new 体験学習ガイド」欄に(俳句と写真/幼児教室/石川ゼミ/専科講座)を掲載しています

●編集兼発行人・石川剛からのVOICE●吉村昭の『日本医家伝』は医学史に残る医家12名を取上げた短編集です/更に彼はその中から6名と一人を選び個々の小説にしました/小誌はその内の(前野良沢/中川五郎治/高木兼寛)3人を選びましたがいかがでしたか(要約:渡邊光樹)/新選組に屯所の改築を勧め仙台で榎本武揚に蝦夷行きを誘われ土方歳三に止められ…維新後山形有朋の要請で初代陸軍軍医総監を務めた松本良順の「暁の旅人」もお勧めです/ ■写真:kumi■

□石川塾長に「ききたい」「たずねたい」「参加したい」(いつでもなんでも気軽にコール/☎042-710-5768)

□<2020年秋号「千の声VOICE」第10号>令和2年9月25日発行 ■HP「千の声ボイス」にバックナンバーを掲載

■〒194-0021 町田市中町1-30-8 菅井町田ビル2F/町高通り・税務署近く ■☎042-710-5768